

委員会レポート (常任委員会・所管事務調査・道内先進地視察調査)

総務文教常任委員会

道内先進地視察調査

平成29年10月12日から13日

《北広島市》

平成30年4月から幕別町内2つの中学校区で施設分離型と施設隣接型小中一貫教育モデル校がスタートするため、北広島市の小中一貫教育の取組を調査した。

北広島市内の小中学校は14校、既存校舎を使用する校舎分離型小中一貫教育を進めている。6校の中学校区ごとに各地域の特色を踏まえ、9年間のカリキュラムを作成し小中一体となつて教育活動を行っている。

平成23年度から全中学校区で小中連携を意識し情報交換や研修に取り組んできた経緯があり、この成果を基に平成28年度に準備委員会を発足。平成29年4月には教育委員会内に小中一貫教育課を新設し、次長として配置した元校長が現場とのパイプ役を担っている。来年度の全中学校区一斉導入に向け、副教材「きたひろ夢ノート」の活用や、小学校と中学校相互乗り入れ授業、異学年交流や地域行事への参加なども積極的に行っている。将来的にはコミュニティス

クルの導入も考えている。石狩総合振興局管内の全市町村の教員で組織されている「石狩管内教育研究会」において、小中一貫教育についての研修会が行われており、教員の異動に伴う弊害も緩和されているとの説明があった。これまでの取組の積み重ねと、北広島市の積極的な姿勢、学校現場との連携がなされていると感じた。



北広島市教育委員会の説明を受ける

《当別町》

当別町の小中一貫教育の取組を調査した。

現在は当別地区と西当別地区に小学校、中学校が1校ずつ配置されており、平成26年度に教育委員会内に一貫教育推進係を設置し、

係長職1名と北海道から派遣された職員1名(主幹職)の2人体制で推進している。

小中一貫教育導入にあたり、数学と英語の科目で小中一貫教育推進講師4人を非常勤で町独自加配したほか、現場の「教師の力」を高めるために、元校長が指導員としてパイプ役となっている。また、当別町は平成13年度から学校評議員制度を実施し、小中一貫校についても議論してきており、今後はこの評議員制度を発展させる形でコミュニティスクールに移行するとの説明であった。後藤議長をはじめとする町議会議員も10年前から小中一貫教育の取組に積極的に関わってきており、町ぐるみで取り組んでいる状況を学んだ。

《南幌町》

今後の幕別町におけるプールのあり方などを探るため、南幌町民プールについて調査した。

南幌町民プールの新設は町民からの要望が多く寄せられたことで、第5期総合計画に位置付け進めていった経緯がある。森林関係補助金を活用し、平成28年度に季節型温水プールとして開設した。建設当初、通年開設で行うことに

ついて議会で議論がなされたが、光熱費などのコスト面から断念した。木のぬくもりがあり暖かい感じがするが、水を使う施設のため、10年ごとの塗り替えが必要との説明があった。

小学校の授業などのほか、教育委員会と福祉課が連携して介護予防普及啓発事業の一環で高齢者水中運動教室を実施しており好評を得ている。

幕別町においても、今後のプール建設にあたっては、将来的なコストの面も考慮し、住民の要望を踏まえ、慎重に検討していく必要があると認識した。



南幌町民プールを視察

民生常任委員会

【所管事務調査】

平成29年11月8日

①幕別本町地区防災備蓄倉庫について

幕別町防災備蓄計画は、マグニチュード7・4の地震が発生した場合の避難所生活者を6173人と想定し、行政が行う備蓄数量や防災備蓄倉庫等について計画したものであるとの説明を受けた。幕別本町地区防災備蓄倉庫の視察では、備蓄用品、棚の配置について質疑を行った。

②幕別町職員災害対応ハンドブックについて

本年度作成されたハンドブック、職員の配備体制等について説明を受けた。また、昨年の水防法の改正に伴い、主に札内地区において洪水浸水予測範囲が拡大し、新しい洪水ハザードマップを作成、防災のしおりに合わせて12月に全戸配布するとの説明を受けた。

③国民健康保険の広域化について

平成30年度から広域化される国民健康保険について、平成29年8月に公表された第3回仮算定による本町の現行保険税の見込みや住民周知の方法、今後のスケジュー

ルなどについて説明を受けた。北海道の激変緩和措置に係る減収に伴う財源措置やジェネリック薬品について質疑を行った。

道内先進地視察調査

平成29年10月24日から25日

《(株)九神ファームめむろ(芽室町)》

最低賃金を保障する就労継続支援A型事業所として、知的障がいや発達障がいのある方を雇用し運営している事業所を視察し、障がいのある方も誰もが働いて生きていくことのできる先進的なまちづくりの取組を調査した。

自社生産した農産物を加工して、惣菜店で親会社である(株)クックチャムへ販売している。最も大きな強みは、加工した製品の全量を(株)クックチャムに買い取ってもらえるというその堅実な収益性があり、従業員の通年雇用を実現できている。課題として、作業のできる作業員ほど一般就労に移行してしまい、作業の生産性が落ちてしまうことなどが挙げられていた。乳幼児から就労期まで一貫性と継続性のある支援を構築すること、発達支援システムの一端を深く学ぶことができた。



(株)九神ファームめむろを視察

《社会福祉法人エクウエート富良野(富良野市)》

障がい児者が住み慣れた地域において生活できるように、先進的な支援等の整備体制についての取組を調査した。

富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村の富良野圏域5市町村から事業の委託を受け、職員8名を配置している。365日24時間対応の相談支援体制(夜間は転送電話)が組みまれており、相談されるご家族としても安心感につながっていると感じた。幼児健診にて発達の遅れがある子供が増加しており、早期に保護者の理解や認識を深めることの重要性も学んだ。



北竜町の説明を受ける

《北竜町》

「認知症になりにくいまちづくり宣言」を制定し、定期的な認知症予防活動の実施、その効果を明らかにする取組について調査した。運動プログラムである「地域まるごと元気アッププログラム」を推進し、町全体で認知症になりにくいまちづくりを目指している。幕別町においても、この認知症予防に向けた取組を参考にし、子供たちに負担をかけない、いつまでも元気で暮らせる地域づくりに向けた取組を研究すべきと感じた。

委員会レポート (常任委員会・所管事務調査・道内先進地視察調査)

産業建設常任委員会

〔所管事務調査〕

平成29年11月9日

①主要道道幕別帯広芽室線の整備計画概要について

道道幕別帯広芽室線の整備計画概要について説明を受け、現地を確認した。道路整備位置や交差点等の安全性について調査を行った。計画では、平成30年度までに用地買収、31年度工事着手、34年度完了との説明を受けた。

委員から、既存の町道等との交差点が鋭角で危険と思われる場所が数か所あるとの意見が出された。  
②幕別町住生活基本計画について  
③幕別町公営住宅等長寿命化計画について

町営あかしや南団地の現状、完成した道営あかしや南団地と町営春日東団地の現地調査を行い、その後、幕別町住生活基本計画と幕別町公営住宅等長寿命化計画について説明を受けた。

委員から、地域人口が減っていく中での公営住宅の供給戸数や高齢者のニーズにあった供給が行われているか、減価償却後に所得制限などをなくして入居できる制度はないのかなどの質疑を行った。

道内先進地視察調査

平成29年10月2日から3日

〔農研機構 北海道農業研究センター (札幌市)〕

北海道、十勝管内における近年の農業研究動向・成果等について調査した。

北海道および十勝における有害線虫(ジャガイモシストセンチュウ)の発生状況、管理状況および対策。土壌診断の有効性、土壌内に生息する土壌菌の研究成果などについて説明を受けた。



北海道農業研究センターの説明を受ける

有害線虫の被害状況、対策など正しい情報を踏まえ、幕別町において予防対策に当たることが必要であると認識を深めた。次世代のニーズに合った育種研究、輪作を

踏まえた土壌診断結果など、多岐にわたる意見交換を交え農業研究の現状を深く学んだ。

〔北海道立総合研究機構産業技術研究本部食品加工研究センター (江別市)〕

北海道における農畜産物等を活用した食品加工の取組を調査した。北海道立総合研究機構の組織概要・体制、研究の展開方向、技術支援実績と支援制度の概要、成果事例、試作実証などについて説明を受けた。

研究成果では、農家の漬け物樽の中から植物性乳酸菌「HOKKAI AIDO株」を発見し、この乳酸菌を使用した多彩な商品が開発されている。北海道の豊かな農水産物を原料とした道産食品の移輸出拡大に向けた研究開発に取り組んでいる現場を視察し、本町における高品質な農畜産物にも十分な可能性があると感じた。

〔道の駅しんしのつ(しんしのつ温泉たっぶの湯)(新篠津村)〕

指定管理者制度による、道の駅しんしのつおよび周辺施設の管理運営状況について調査した。「グランピング」など毎年新たな



道の駅しんしのつ(グランピングテント)を視察

な取組を展開している。札幌近郊ということもあり、テレビ取材等による宣伝の効果は大きな反響がある。毎年の指定管理料(委託料)の支払はないが、20年を経過した温泉宿泊研修施設の修繕費用の課題があり、計画的な改修を指定管理者と協議している。道の駅・宿泊施設・公園等の施設を結び付け、その相乗効果を発揮しながら地域活力を創出する取組や施設老朽化など、本町における現状を重ね意見を交換した。

十勝町村議会

議員研修会に参加

十勝町村議会議長会主催による議員研修会が、平成29年11月7日に更別村社会福祉センターで開催された。

取組発表として町立土幌高校から、「土幌高校生の思いが重なり町の未来を紡いでいく志プロジェクトのこれまでの経緯と今後の展望」と題して、土幌高校生徒と担当教諭から、これまでの取組の経緯について発表が行われた。

土幌高校は、グローバルGAP（GAP）認証や最先端技術を活用した学習など、独自の取組で注目されている。また、全国の農



業高校等の生徒グループによる、農や食に関するプロジェクトや課題研究を支援・顕彰する「全国高校生農業アクション大賞」の第1回認定校（グループ）に道内で唯一選ばれるなど、土幌の豊富な食資源の活用と魅力発信に取り組んでいる。

この日、生徒からは生徒の夢や活動をブランド化する「志プロジェクト」の4年間の活動などについて発表があった。高校には畑作や畜産など専門分野に分かれた10の専攻班があり、環境専攻班が全道のポスターコンクールで大賞を受賞、地域資源専攻班がシーベリースーダを東京でPR、畜産専攻班がオリジナルのソフトクリームを道の駅で試験販売するなど、高校と土幌町の魅力を外に発信すること、生徒の達成感ややる気の源となっている。このプロジェクトは、こうした専攻班や部活動の取組を「ブランド」として、農業クラブ執行部（生徒会）に申請し、認証されるとバッジが交付され、生徒の胸に光るバッジは生徒の誇りとなっている。

これらの課題解決型の学習を通じた取組により、「進学してより深く学びたい」、「土幌の活性化に貢献したい」など、生徒達の明確な目標設定につながっている。

◆議会日誌◆

- 11月 7日 十勝町村議会議員研修会
- 8日 民生常任委員会
- 9日 産業建設常任委員会
- 20日 総合計画に関する特別委員会
- 20日 庁舎建設に関する特別委員会
- 20日 全員協議会
- 20日 議会広報広聴委員会
- 24日 議会運営委員会
- 12月 1日 議会運営委員会
- 1日 第4回定例会（初日）
- 1日 総合計画に関する特別委員会
- 1日 議会広報広聴委員会
- 1日 総務文教常任委員会
- 12日 議会運営委員会
- 12日 第4回定例会（一般質問）
- 12日 民生常任委員会
- 12日 産業建設常任委員会
- 13日 議会運営委員会
- 13日 第4回定例会（一般質問・議案審議）
- 14日 総合計画に関する特別委員会
- 14日 庁舎建設に関する特別委員会
- 14日 総務文教常任委員会
- 22日 議会運営委員会
- 22日 第4回定例会（最終日）
- 22日 全員協議会
- 1月 11日 議会広報広聴委員会
- 18日 議会広報広聴委員会
- 18日 産業建設常任委員会
- 24日 民生常任委員会
- 29日 総務文教常任委員会

インターネット議会生中継がスマートフォンやタブレットで見られます！！



平成28年第4回定例会からスマートフォンやタブレット端末でも町議会のLIVE中継をご覧いただけるようになりました。

IT化の急速な発展により、スマートフォン、タブレット端末等の保有者が増加していることから、多くの方々に町議会に関心を持っていただきたいと考えていますのでぜひご覧ください。